

北海道における子どもの 貧困と体力・運動能力の 関係

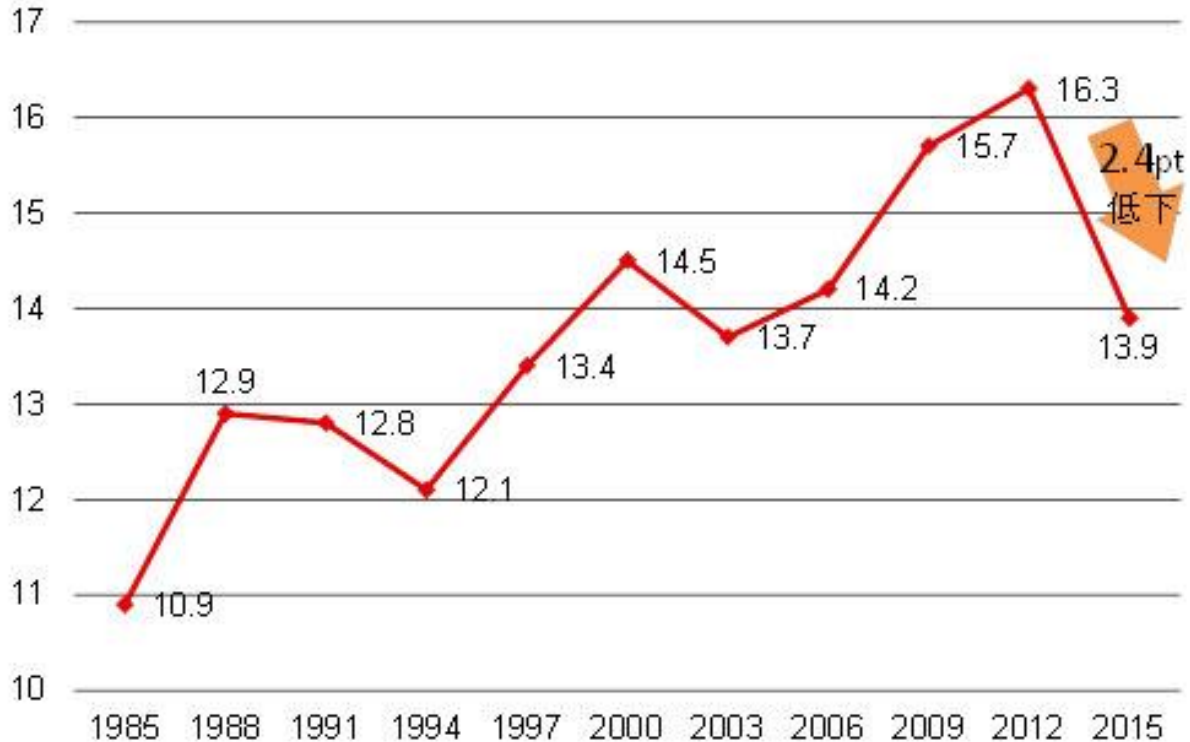
北翔大学 千葉ゼミ

○伊藤啓太 板谷直道
前田魁都 矢崎蓮

日本の相対的貧困の推移（1985-2015）

（出所：厚生労働省「国民生活基礎調査」：小林康平ら，三菱UFJリサーチ&コンサルティングの記事）

（子どもの貧困率：%）



日本の相対的貧困率は、1985年の10.9%から2012年の**16.3%**へ上昇した。

2015年には13.9%へ下降したが、先進国の中では相対的に高い傾向に変りはない。

相対的貧困の定義（阿部、2008）

- ・「人として社会に認められる最低限の生活水準は、その社会における『通常』から、それほど離れていないことが必要であり、それ以下の生活を『貧困』と定義する。
- ・手取りの世帯所得を世帯人数で調整した値の中央値の半分以下（OECDの貧困基準）。

先進国にみる「ひとり親世帯」の貧困率

(出典:OECD「Educational Opportunity for All: Overcoming Inequality throughout the Life Course 2017」を基に株式会社マネネ作成。森永康平、毎日新聞2018年10月17日より)

就業の有無による「ひとり親世帯」の貧困率



先進国の中で、日本の「ひとり親世帯」の貧困率は就業の有無にかかわらず、**50%を**超えて、**極端に高い。**

先行研究の検討：石原ら(2015)の調査結果

・石原ら(2015)は、都道府県ごとの**体力・運動能力テスト(2010)**における平均点と「**貧困**」に関する指標を用いて、子どもの**貧困と体力の関係性**を小中学生男女を対象に評価した。

・その結果「**ひとり親世帯**で育つ子供の割合と」「**教育扶助**を受ける世帯で育つ子どもの割合」の二つの項目と体力テストの平均点の間に負の相関関係が認められた。

⇒つまり、「**貧困**」家庭の子どもほど、体力が低い傾向が示唆された。

体力の定義

体力を体力・運動能力テストを用いて測定しているため、当該テストにおいて測定される筋力、敏捷性、持久性等が含まれる身体的体力としての行動体力、さらにはその中の機能の部分「体力」と定義する。

調査設問

- ・北海道の新体力テストの結果は、これまで全国平均を下回ってきた。これは積雪期に子どもたちの活動量、運動量が減少するからとされてきた。一方で、同じく積雪地域である秋田県は、常に上位に入っている。
- ・同じ積雪地域であるにもかかわらず、なぜ二つの地域の子どもの体力に、大きな隔たりが生じるのだろうか。

研究目的

1) 北海道と秋田県に小学生の体力テストの結果と平均年収、ひとり親世帯の比率を比較し、二つの地域の子どもの体力の差を生む要因を明らかにする。

2) 二つの地域の小学校教員への事例研究を通して、子どもの体力を阻害する要因と効果的な教育実践、地域特性について明らかにすることを目的とする。

さらに、これらの結果を踏まえて、北海道教育委員会に対して提言を行う。

調査方法

1)調査方法①

本研究では、北海道と秋田県における「貧困」の指標と、小学校の体力テストの点数を比較する。また北海道と秋田県で体力向上のために行われている対策を比較する。

2)調査方法②

北海道と秋田県の小学校教諭へのインタビュー調査と質問紙調査を2018年10月に行った。北海道江別市立A小学校S先生を対象に1時間程度、インタビューを行った。秋田県B市立C小学校T先生を対象に質問紙調査を行った。

表1.北海道と秋田県にみる新体カテスト小学校男女合計点の比較(2015)

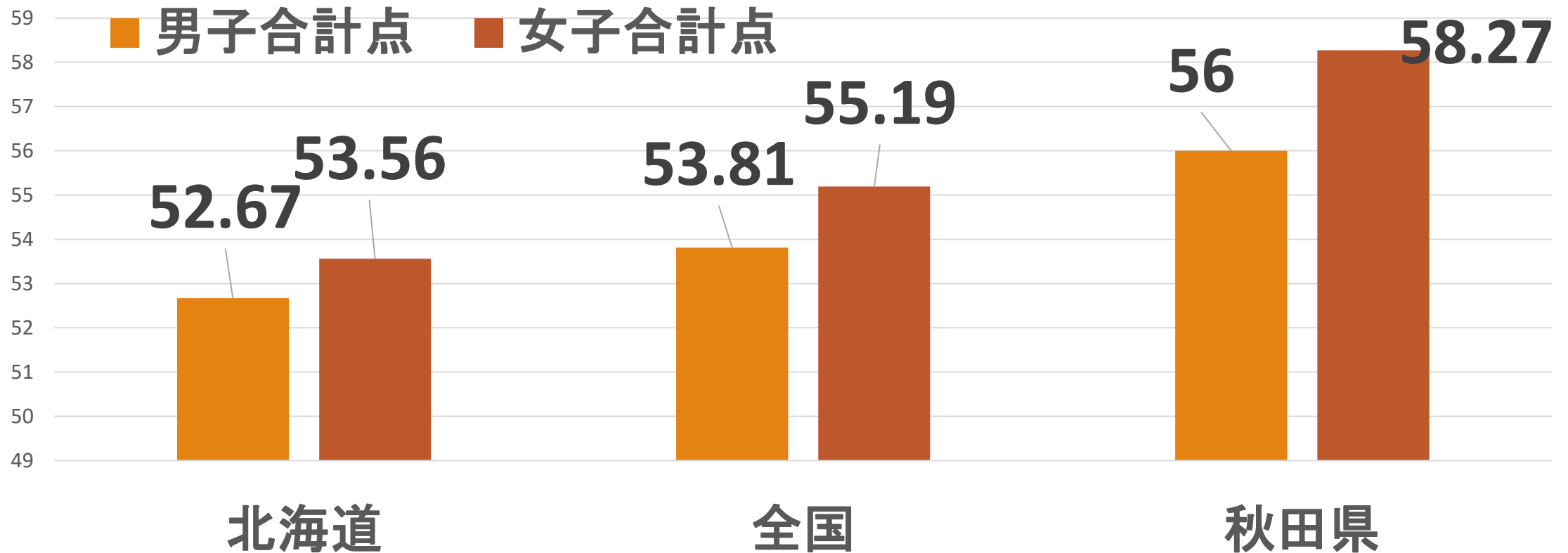
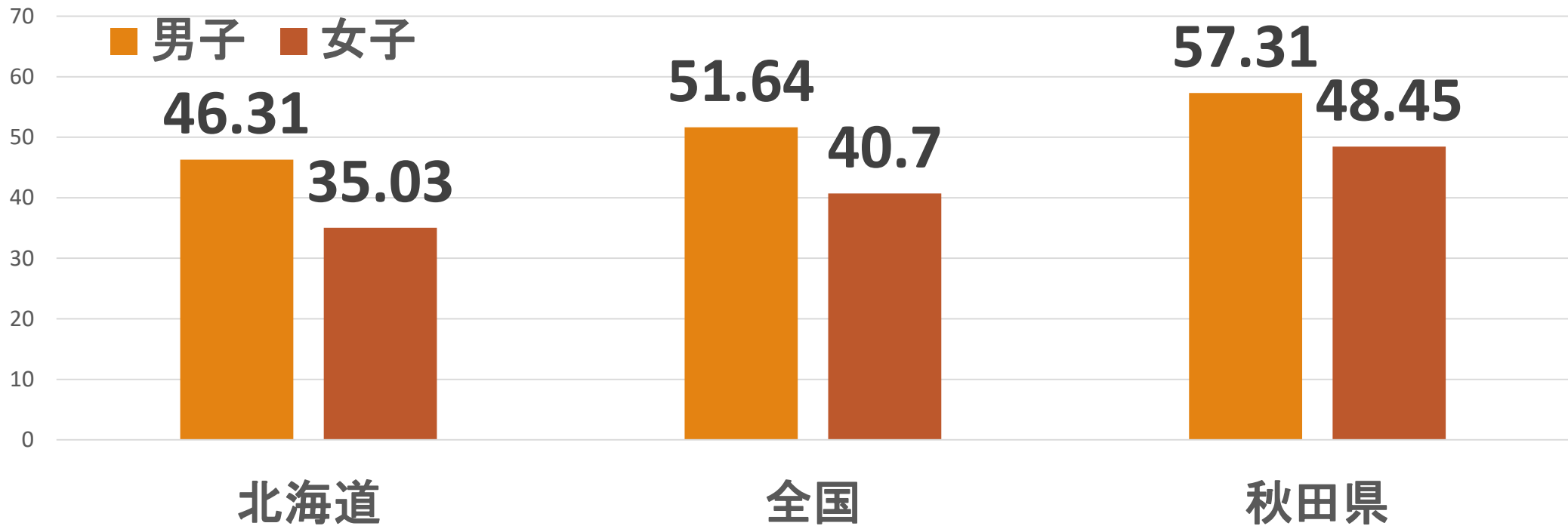


表2.北海道と秋田県にみる新体カテスト種目別20mシャトルランの比較(小学校男女)



上体起こし、長座体前屈、反復横とび、立ち幅跳びにおいても、北海道の結果は、全国平均を下回る一方で、秋田県は北海道と全国平均を上回っていた。

表3.北海道と秋田県にみる平均年収（万円）の比較（厚生労働省平成27年度賃金構造基本統計調査）

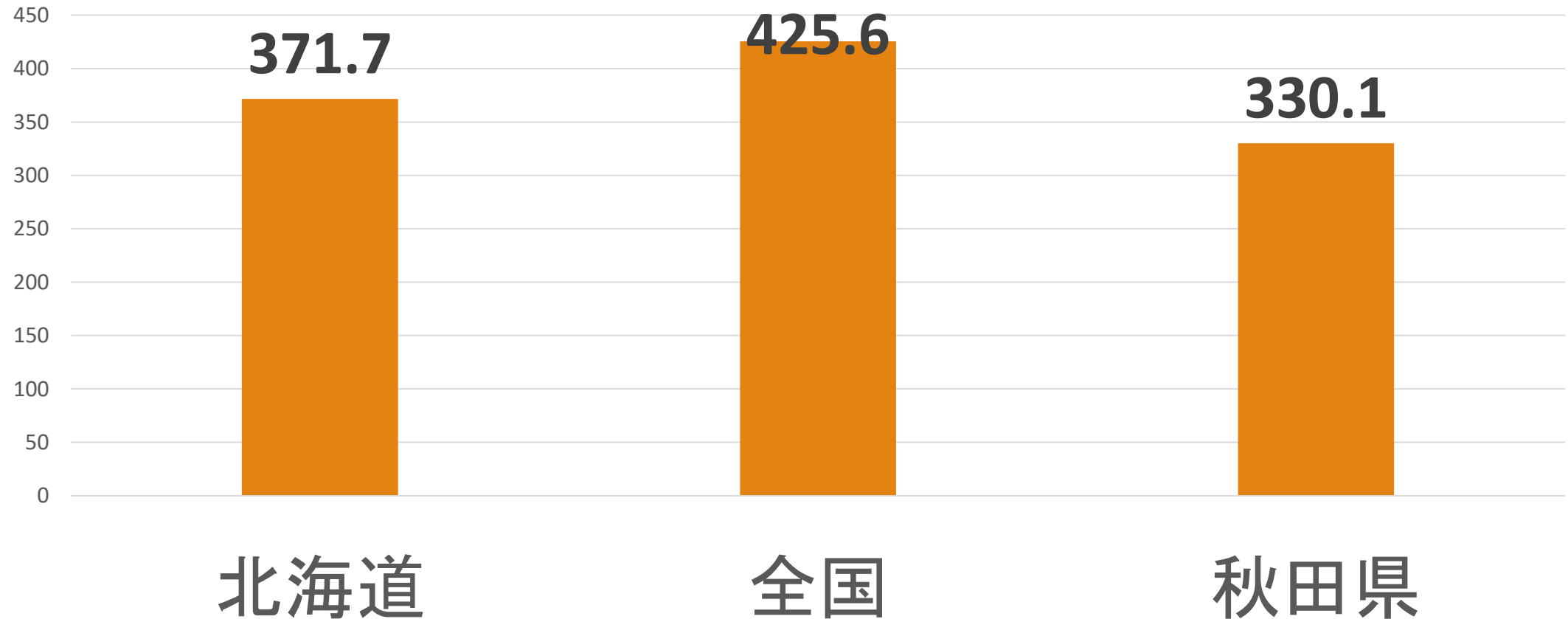
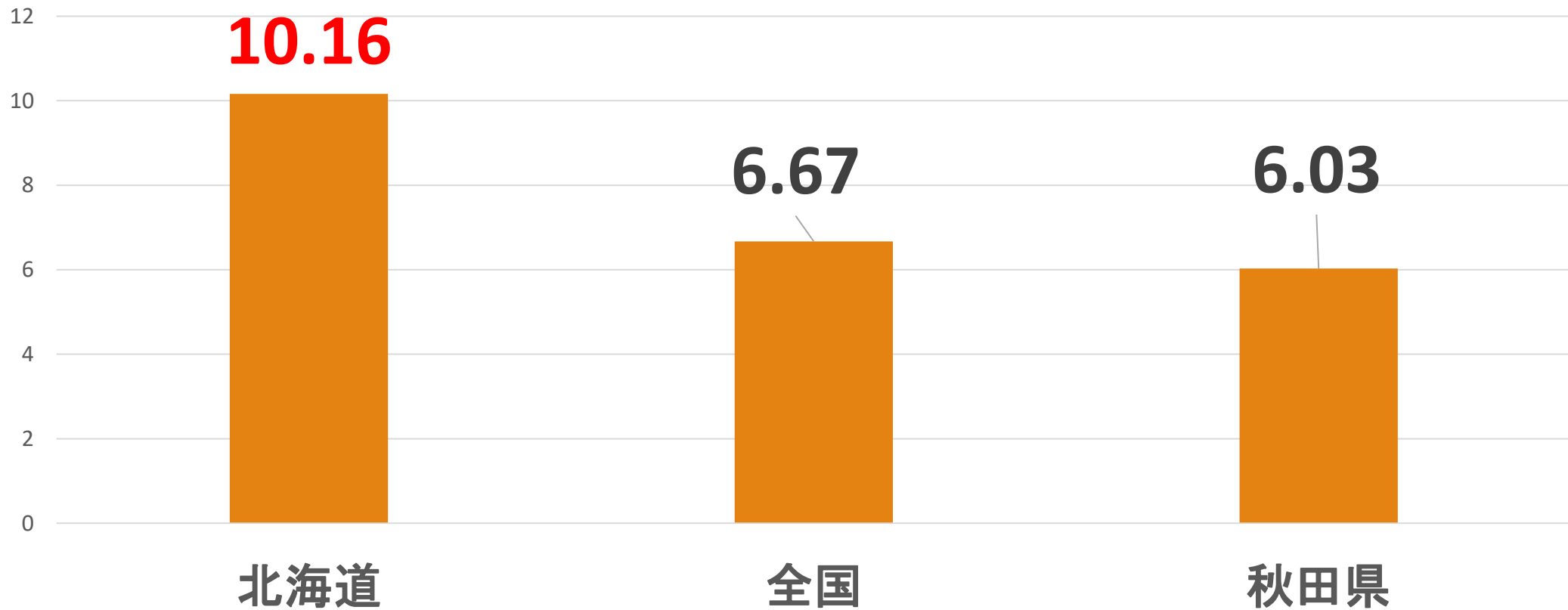


表4.北海道と秋田県にみるひとり親世帯の割合(%)の比較(平成27年度国勢調査)



A 小学校の「朝の運動プログラム」



A 小学校では、江別市教育委員会の働きかけを受けて、北翔大学の教員と連携し、「朝の運動プログラム」を 10 年前から行ってきた。このプログラムは、1 年生を対象に、授業前に年間 30 回程度、朝運動を行い、体力の向上を目指してきた。

このプログラムは、4 年生から 6 年生の児童から、ジュニアリーダーを募集し、大学教員と大学生ボランティアがジュニアリーダーに遊びを基本とした運動を教え、その内容を 1 年生に伝えることを目的としている。さらに、1 年生の体力向上とともに、上級生の指導者養成としての側面が重視されている。

北海道江別市A小学校教諭 S先生へのインタビュー結果

子どもの体力向上のための取り組み⇒3日に1回の朝運動の実施

授業中の取り組み⇒体育専科の教員を配置。授業の充実化

効果⇒ 立ち幅跳び(瞬発力)の成績向上

積雪期間の取り組み⇒ 体育の授業のみ

・課題⇒シャトルラン、50M走(走力、持久力)の平均値は全国平均以下。

秋田県立大仙市立T小学校T先生への質問紙調査結果

Q1. 子供の体力向上に向けて、どのような取り組みをしていますか。(授業時間外)

A. 2.3時間目の間に「ラララ
ンタイム」と称し5分間走に取り
組んでる。10月にはマラソン
大会を行っている。



秋田県立大仙市立T小学校T先生への質問紙調査結果

Q3 体力向上の取り組みの結果、どのような効果が見られましたか。

A 運動好きの子供の割合が増えた。

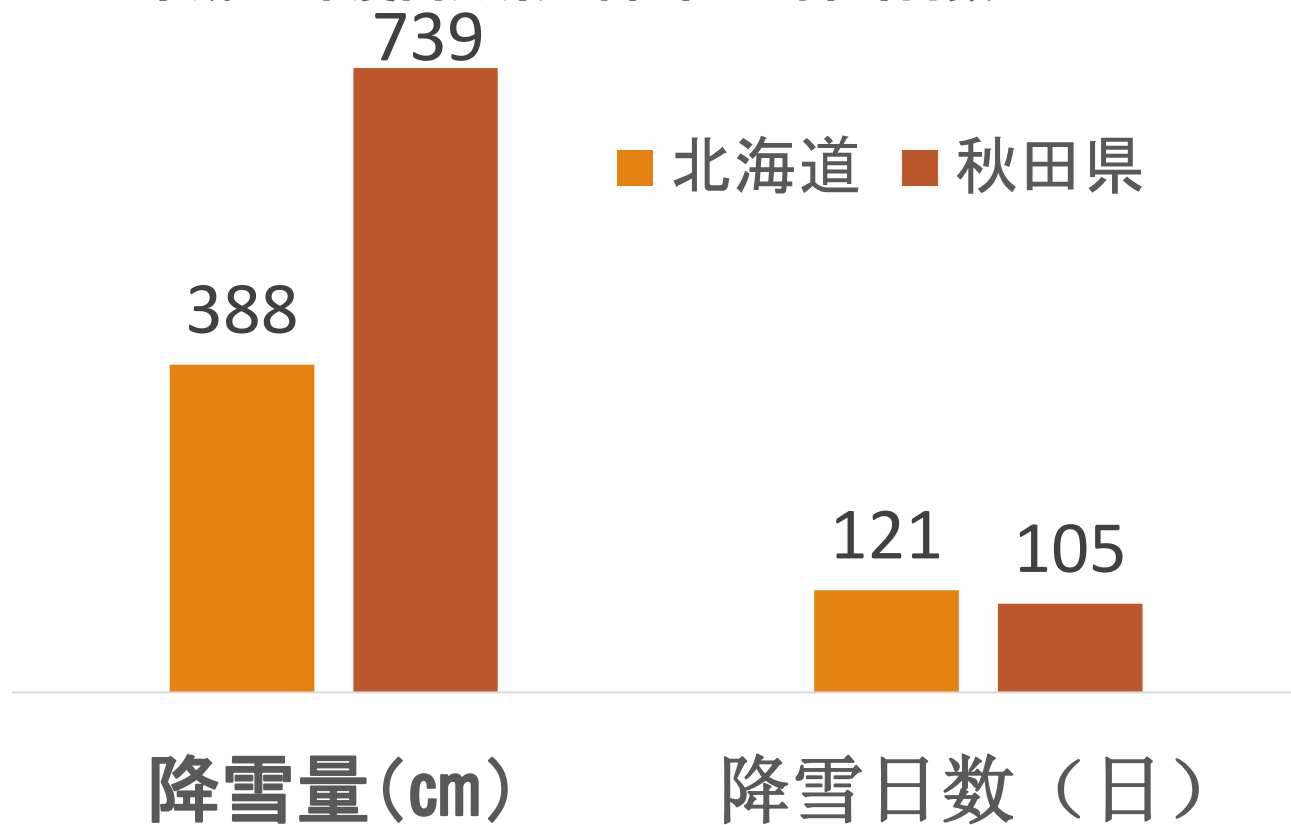
50M走、シャトルランの結果が向上

Q5 冬季期間中の取り組み

- ・なわとび(階級付けをして)
- ・ スキー授業

降雪量、年間降雪日数（道路防災対策室のホームページより）

平成29年度両道県の降雪量・降雪日数



降雪日数を比較しても体カテスト上位県の秋田県と下位の北海道に大きな差はほとんど見られない。北海道の降雪日数が16日だけ多い。一方で、秋田県の方が降雪量が多いために、北海道が降雪で不利だとは言いきれない。

結果のまとめ

- ・北海道の子どもの体力は、同じ積雪地域の秋田県、全国平均を下回る。
- ・秋田県では、通年で中休みでの運動プログラムを行っている。一方で、北海道では冬季期間は体育授業のみ。
- ・秋田県は、体力向上プログラムの目標設定がしっかりされている。(10月のマラソン大会等)
- ・北海道の平均年収は、秋田県よりも高かった。一方で、ひとり親世帯の割合は秋田よりも高かった。

政策オプション⇒北海道日本ハムファイターズ



婚活生活と日本ハムファイターズの「スタ婚」企画の写真(2018年5月20日・6月16日)

北海道日本ハムファイターズの公式戦でひとり親向けの婚活イベントを企画

子持ちの女性と子供は入場料を割り引きし、チームは子どもが遊べるスペースを用意する。

→子育てや仕事で婚活が出来ていない親に子どもを遊べるスペースに配置された職員もしくはボランティアに預け試合観戦しながら同じ境遇の異性と交流する場を設定する。

まとめ(提言)⇒北海道教育委員会

- 1、全道の小学校で「**朝運動プログラム**」を行う
- 2、各小学校に**体育専科の教員**を配置する
- 3、一人親世帯と教育扶助世帯の子どもがスポーツ少年団に加入する際の**活動費を補助する制度**

提言②北海道教育委員会

4. 秋田県で効果を上げている体力向上施策の導入

①B小学校における中休みに5分間走

年に1度のマラソン大会

→5分間走のモチベーションに繋がる

②冬季期間中の施策

なわとび

→1級、2級、のようなできる技に応じた階級の設定

目標設定になる。

参考文献

文部科学省平成27年度全国体力・運動能力テスト

厚生労働省平成27年度賃金構造基本統計調査

阿部彩(2008)子どもの貧困、岩波新書

石原暢、富田有紀子、平出耕太、水野眞佐夫(2015)日本の子どもにおける貧困と体力・運動能力の関係、北海道大学大学院教育学研究院紀要, 122: 93-105

西田芳正(2012)社会的排除・包摂論からみた「貧困・生活不安層の子ども・若者たち」、日本教育社会学会大会発表要旨集録, 64: 106-107

竹田唯史、石井由依、大宮真一、近藤雄一郎、増山尚美、晴山紫恵子、山本公輔(2017)生涯スポーツ学部研究紀要8、141-155.

都道府県格付研究所のホームページ(<http://grading.jpn.org/SRB02304.html>)

小林康平ら、三菱UFJリサーチ&コンサルティングの記事より:
http://www.murc.jp/thinktank/rc/column/search_now/sn170728

森永康平、「日本のシングルマザーの貧困率が突出して高い理由」、毎日新聞2018年10月17日

平成27年度国勢調査

道路防災対策室のホームページより(http://www.mlit.go.jp/road/bosai/fuyumichi/kosetsu/H29_kosetsu.pdf)